様式第４号（教員個人に関する書類）

教育研究業績書

氏名　　新 谷　裕 幸

認定を受けようとする課程における担当授業科目			
教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育に関する科目
・　情報科教育法（単独）			

教育上の能力に関する事項		
事項	年　月	概要
１　教育方法の実践例		
情報教育、教育方法、その他の教科教育法	平成24年４月　～ 平成28年３月	柳川市教育委員会・福岡県教育委員会研究指定・委嘱 普通教育における効果的なICT活用とかく活動の実践研究
情報教育、教育方法、その他の教科教育法	平成26年４月　～ 平成28年３月	文部科学省委託事業 小学校におけるプログラミング教育の実践研究
情報教育、教育方法、その他の教科教育法	平成27年４月　～ 平成28年３月	文部科学省委託事業 人口減少化社会における遠隔地授業のあり方の実践研究
初等教育のためのICT活用	平成29年４月 ～平成31年３月	日本文理大学工学部
理科、道徳教育論、教育方法論、特別活動指導法、学校・学級経営論、教職実践演習、教育実習事前・事後指導、教育実習	平成30年４月から現在	姫路大学教育学部
２　作成した教科書・教材		
学校における情報モラル等教育の推進（共著） 日本教育工学振興会	平成22年３月	文部科学省委託事業 「学校情報化推進プラン」により、今後の情報モラル指導内容及び指導方法を、現場での実践研究を基本に提言する。 第３章第５節　「熊本県での実証授業」20頁 永野和男　他10名
管理職･ミドルリーダーのための「校務の情報化」入門（共著） 教育開発研究所	平成24年７月	校務情報化支援検討会・編集 校務の情報化による教育活動の変化を解明した入門書を執筆する。 第３章「ここが知りたい！校務の情報化 Q&A」31 頁、 第４章「管理職が語る校務の情報化のコツ」⑤「校務の情報化を地域全体に普及するための取り組み」４頁 堀田達也　他８名

様式第４号（教員個人に関する書類）

「校務の情報化」で学校経営がこう変わる（共著） 教育開発研究所	平成27年３月	校務情報化支援検討会・編集 校務の情報化Q&Aや管理職が語る校務の情報化のコツを網羅し執筆する。 第３章「校務支援システムによる通知表づくり」最優秀賞受賞校レポート２頁、第４章「ここが知りたい！校務の情報化Q&A」40頁、第５章「管理職が語る校務の情報化のコツ」⑧ 「校務の情報化を地域全体に普及するための取り組み」４頁 堀田達也　他８名
３　教育上の能力に関する大学等の評価 情報活用能力向上のための共同研究	平成29年４月 ～平成31年３月	大分県教育委員会、大分大学、日本文理大学による共同研究（子どもの情報活用能力の向上、教師の指導スキルの向上、プログラミング教育実践モデルの開発など）の研究員として参加する。
STEM教育の推進のための共同研究	平成30年１月 ～令和２年３月	大分県庁、大分県教育委員会、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、諸研究機関・団体による共同研究（各学校におけるSTEM教育の推進と連携カリキュラムの開発など）の研究員として参加する。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
５　その他 教育実習生の受け入れ	平成11年４月 ～平成28年３月	管理職として勤務していた17年間（教頭７年間、校長10年間）、毎年教育実習生（教諭志望、養護教諭志望など）を受け入れてきた。そのほとんどが、今では教諭等として教育現場で児童・生徒の指導にあたっている。
研究指定校指導	平成１年度 ～現在	福岡県・大分県・佐賀県を中心に、教育研究指定校の外部講師として教育研究を指導している。

職務上の実績に関する事項

事項	年　月	概要
１　資格，免許 教員免許	令和13年まで更新済み	小学校、中学校（社会科）、高等学校（社会科・商業科）
社会教育主事		学校運営協議会、公民館事業
無人航空機		DJI CAMPインストラクター、ドローン検定1級
２　学校現場等での実務経験		

様式第４号（教員個人に関する書類）

３　実務の経験を有する者についての特記事項		
「効果的」視点からのICT活用	平成29年８月	教育システム情報学会　全国大会 小学校におけるICT活用を、教科指導における利用、プログラミングロボット、情報モラルの視点から効果的な活用事例を説明する。特に、生活科と総合的な学習の時間で、ICTを活用した実践事例を多数例示し、実践の成果と課題を明確にする。
教員免許コース学生が修得すべきICTスキルの分析	平成29年10月	日本文理大学紀要 PCスキルに自信のない学生が多い中で、特に小学校教員免許取得を目指す学生に必要な情報リテラシーを小学校現場の目線で分析する。特に、総合的な学習の時間での情報活用能力を、既存のソフトウェアの様々な機能と関連づけ、実際の指導での児童の能力育成に資する指導法をまとめる。
宇宙エレベーターロボットとプログラミング教育の可能性	平成30年10月	日本文理大学紀要 「ものづくり」と「しかけづくり」の観点から、LEGOを使った宇宙エレベーターロボットを創作し、それぞれがプログラミングにて動作させる。小・中・高校の児童・生徒が一堂に会し、宇宙エレベーターロボット競技会を開催し、独自性や創造性を審査する。また、各所に出向き講座を開催する。
ドローンと情報メディアのつながり	令和２年11月	日本文理大学紀要 ドローンの飛翔構造と空撮の側面に加え、Society5.0toドローンの関係性から、現実世界と計算機世界を結びつけるIoT/CPSの中での重要性を解明する。また、情報工学の側面、メディアデザインの側面、コミュニケーションの側面、子ども・情報の側面から具体的な事例を論述する。
４　その他		
情報モラル指導	平成19年８月～現在	ネットいじめ対応アドバイザーとして、九州各県で児童・生徒の学習指導、教職員の研修指導、警察・PTA・地域団体で講演などを行う。特に、教職員研修指導では、生活科や総合的な学習の時間、情報科、道徳科や特別活動を中心に、指導目標・指導内容・指導方法を明確にした具体的な指導法を研修で取り上げ、参加型での研修を行う。

様式第４号（教員個人に関する書類）

担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数(総ページ数)	概　要
情報科教育法（単独）	（著書） １．『学校における情報モラル等教育の推進』	共著	平成22年３月	日本教育工学振興会	20頁	「學校情報化推進プラン」により、今後の情報モラル指導内容及び指導方法を、現場での特別活動や「道徳の時間」を中核としつつ、低学年の生活科や中高学年での総合的な学習の時間での実践研究を基本に提言する。 第３章第５節「熊本県での実証授業」20頁 共著者：永野和男　他８名
	２．『管理職・ミドルリーダーのための「校務の情報化」入門』	共著	平成24年７月	校務情報化支援検討会・編集 教育開発研究所	第３章31頁 第４章4頁	校務の情報化による教育活動の変化を解明した入門書を執筆する。 第３章「ここが知りたい！校務の情報化Q&A」　31頁 第４章「管理職が語る校務の情報化のコツ」⑤「校務の情報化を地域全体に普及するための取り組み」　４頁 以上、共著者：堀田達也　他８名
	３．『「校務の情報化」で学校経営がこう変わる』	共著	平成27年３月	校務情報化支援検討会・編集 教育開発研究所	第３章２頁 第４章４０頁 第５章４頁	校務の情報化Q&Aや管理職が語る校務の情報化のコツを網羅し執筆する。 第３章「校務支援システムによる通知表づくり」最優秀賞受賞校レポート２頁 第４章「ここが知りたい！校務の情報化Q&A」40頁 第５章「管理職が語る校務の情報化のコツ」⑧「校務の情報化を地域全体に普及するための取り組み」４頁 以上、共著者：堀田達也　他８名
	（学術論文等） １．「効果的」視点からのICT活用	単著	平成29年８月	教育システム情報学会全国大学論文集		小学校におけるICT活用を、教科指導における利用、プログラミングロボット、情報モラルの視点から効果的な活用事例を説明する。特に、生活科と総合的な学習の時間で、ICTを活用した実践事例を多数例示し、実践の成果と課題を明確にする。

様式第４号（教員個人に関する書類）

	２．教員免許コース学生が習得すべきICTスキルの分析	共著	平成29年10月	日本文理大学紀要		PCスキルに自信のない学生が多い中で、特に小学校教員免許取得を目指す学生に必要な情報リテラシーを小学校現場の目線で分析する。特に、総合的な学習の時間での情報活用能力を、既存のソフトウェアの様々な機能と関連づけ、実際の指導での児童の能力育成に資する指導法をまとめる。
	３．宇宙エレベーターロボットとプログラミング教育の可能性	共著	平成30年10月	日本文理大学紀要		「ものづくり」と「しかけづくり」の観点から、LEGOを使った宇宙エレベーターロボットを創作し、それぞれがプログラミングにて動作させる。小・中・高校の児童・生徒が一堂に会し、宇宙エレベーターロボット競技会を開催し、独自性や創造性を審査する。また、各所に出向き講座を開催する。
	４．ドローンと情報メディアのつながり	共著	令和2年11月	日本文理大学紀要		ドローンの飛翔構造と空撮の側面に加え、Society5.0toドローンの関係性から、現実世界と計算機世界を結びつけるIoT/CPSの中での重要性を解明する。また、情報工学の側面、メディアデザインの側面、コミュニケーションの側面、子ども・情報の側面から具体的な事例を論述する。
	（その他） １．情報モラル教育出前授業及び講演		年10回程度			児童生徒に対しては、教科等学習の時間で、情報モラルの重要性や被害者・加害者にならないための基本的なモラルについて学習を行う。また、保護者等に対しては、社会問題としての情報犯罪への対峙の方法について講演する。
	２．プログラミング教育出前授業及び教員研修		年10回程度			小学校の総合的な学習の時間、中学校の技術科、高等学校の情報化でのプログラミング教育を実施する。教材には、ロボティックスの技術を取り入れ、ビジュアルプログラミングの体験を中心に行う。教員には、発達段階に応じて、プログラミング教育の在り方を講話する。
	３．学校ICTアドバイザー		随時			GIGAスクール構想の推進にあたり、自治体からの要請を受け、導入計画、事業所プロポーザル、事業者選定、機器導入、システム導入、活用研修などの指導と助言を行う。

様式第４号（教員個人に関する書類）